# 仙台医療福祉専門学校
# 令和４年度 学校関係者評価報告書

令和５年６月

学校法人　北杜学園
仙台医療福祉専門学校

◆　令和４年度　学校関係者評価について

学校法人北杜学園 仙台医療福祉専門学校は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいた評価項目に沿って実施・作成した、「令和４年度自己点検・評価報告書」の結果について、学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価を実施いたしました。

本校に関係の深い方々から幅広くいただいたご意見・ご提言を評価項目毎に要約し、本報告書に取りまとめました。「令和４年度自己点検・評価報告書」と共にご覧ください。

関係の皆様からいただいた貴重なご意見・ご提言は今後の改善策に盛り込み、学生により良い教育と環境を継続的に提供し、常に質の高い専門職業人を養成してまいりたいと存じます。

令和５年６月
学校法人北杜学園
仙台医療福祉専門学校
校長　　工藤　広一

◆　学校関係者評価委員会　評価委員

| 氏　名 | 選　出　区　分 | 所　属　・　役　職 |
|---|---|---|
| とがみ　けんいち<br>戸上　謙一 | 関係施設 | 有限会社 ファーマシーすず　統括本部 統括部長 |
| きたむら　てつじ<br>北村　哲治 | 業界団体 | 仙台市薬剤師会　会長 |
| すがさわ　まさや<br>菅澤　昌也 | 関係施設・卒業生 | 介護老人保健施設　エバーグリーン・イズミ　施設長 |
| こいずみ　のぶやす<br>小泉　敦保 | 関係施設 | 株式会社 バイタルケア　代表取締役社長 |

| 評価項目 | （1）教育理念・目標 |
|---|---|
| ① 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | |
| ② 学校における職業教育の特色は何か | |
| ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | |
| ④ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | |
| ⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか | |

評価委員からの評価・意見

・介護福祉士養成において、国家試験における高い合格率を維持するためにアプリ等を活用した試験対策が有効であると評価している。外国人留学生の国家試験合格率が過去最高を達成したことについても効果的な取り組みの結果だと実感している。

・介護福祉士養成に関しては、コロナ禍も落ち着き、今後留学生の入学が増加することが予想され、国家試験の合格率も推移してくるだろう。これまでの合格率は素晴らしいが、これを維持するためには、今のうちから準備をしっかりすべきである。日本語学校との連携はもちろんのこと、高校から入学する留学生も増加すると思われるので、より連携を強化してほしい。

・社会福祉主事養成機関の社会福祉学科において、社会福祉士国家試験を短期養成機関修了が免除され、実務経験 2 年で受験できるようになったことは非常に大きな出来事である。これは大学と同等以上のメリットがあると考える。経済状況や個人の考え方が以前と異なり、自分の目指すところに自分の力で行きたいという高校生が多くなってきている感触がある。大学 4 年で自動的に受験資格は得られるが、専門学校を卒業し、自分で働きながら実務経験を積むことによって、将来の目標のために自ら実践しているという気持ちが強くなり、自分に自信がついてくる。このキャリアパスは進路を考える高校生にとって、ひとつのツールとして大きなアピールポイントになる。是非オープンキャンパス等で周知し、明確な進路を持てない高校生が多い中で道筋を示して頂きたい。

・地域医療に関する取り組みの中で、最も大きな問題は在宅における介護の在り方である。就業希望者が少なく、業務への取り組みも淡泊で配慮が足りないとの指摘も多いと聞く。介護はその人に寄り添う部分が大きいものと考えているので、今後の進め方として留学生を含め人の気持ちに寄り添うことの必要性について重点的に取り組んでほしい。

・医療・介護分野の学校では給与水準の影響から、ニーズが高いが専門分野への就職率が低いイメージがあったが、貴校は毎年高い専門分野への就職を達成しているとのことで、大変評価できる。

| 評価項目 | (2) 学校運営 |
|---|---|
| ① 目的等に沿った運営方針が策定されているか | |
| ② 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | |
| ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | |
| ④ 人事、給与に関する制度は整備されているか | |
| ⑤ 教務・財務等の組織設備など意思決定システムは整備されているか | |
| ⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | |
| ⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | |
| ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | |

評価委員からの評価・意見

・ICT の活用はコロナ禍を過ぎてもリモート授業等の取り組みの検討は必要であるが、個人的にはスマートフォンでの学習は難しいと実感している。弊社においては、社員に同じ機能のタブレットを貸与し活用している。これは端末同士の連携や問題が発生した場合でも速やかに対処できるというメリットがある。予算の問題もあると思うが、これから整備するのであれば、学生に対し学校側と同じパソコンやタブレットを一律貸与という取り組みも検討してみて良いのではないか。

・ICT の活用方法として長期休暇の学生状況の把握に利用できるのではないか。現況の電話やメールでの連絡方法よりもズームを利用することで密度が濃くなる。長期の休暇は生活状況や進路の考え方に変化がある可能性が高い期間なので顔を見て話すことで学生とのコミュニケーションがより密に取れるのではないか。

・ICT の活用方法として保護者との連携が挙げられる。例えば保護者に ID、パスワードを発行することで学校サーバーに入ることが可能になり、学生の出席状況、成績状況、学校スケジュールの確認をすることで、より保護者との連携が強化できるのではないか。

・ICT の取り組みが盛んであるが、本当のコミュニケーションは対面である。うまく使い分けてほしい。

・学校経営の視点から考えると学生・教員が重要である。教職員が生き生きと働いているところは発展していき、学生の質の向上にも繋がると思うので、教員採用も含め、教員への投資をして頂きたい。それが就職先での学生の評価に繋がり、最終的には学校の評価に繋がると考える。

| 評価項目 | (3) 教育活動 |
|---|---|
| ① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | |
| ② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | |
| ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | |
| ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | |
| ⑤ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | |
| ⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか | |
| ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか | |
| ⑧ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | |
| ⑨ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | |
| ⑩ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか | |
| ⑪ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | |
| ⑫ 関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | |
| ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | |
| ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか | |

評価委員からの評価・意見

・介護福祉学科のカリキュラム変更により、「人間関係とコミュニケーション」の教育が増えているが、他の学科においてもコミュニケーションは一番求められる要素であるとの認識は一致していると思う。私はコミュニケーション能力を身に付ける際、ビジネス書を活用していた。ビジネス書には、日頃使えるネタのような内容が盛り込まれており実践的である。教科書の他にビジネス書を活用してみるのも良いのではないか。

・介護分野において現場の職員が専門学校等の非常勤講師で教育の現場に立っているという話を聞いているが、非常に良いことだと思う。是非、現場職員から就職した後のキャリアアップをイメージした授業をして頂きたい。現場では介護福祉士やケアマネージャーの成り手が減っている現状があるので、学生にステップアップの道筋を示して頂きたい。

・現場の方を非常勤講師としてお願いするのも良いが、現場の方を招いた座談会を定期的に開催することが望ましいと考える。座談会形式にすることで、対話の中から学生が聞きたいことを引き出せる環境が出来上がる。

・介護業界で介護福祉士が不足しており、これからは分業制が必要であると感じている。医療業界は医師事務補助者があるが、介護事務補助者が介護福祉士の事務作業を主体的にカバーできると現場では有効的である。

・介護老人保健施設の立場からであるが、ソーシャルワーカーのスキルは非常に高いところを求められてきている。具体的には医学的な知識を増やしていかないと利用者の受け入れができない。養成に関して留意頂きたい。

・どの時代も医療・介護に通ずるのは究極のサービス業であると認識している。特に医療現場はサービス業として何をできるのかを常に考え、最優先すべきは目の前の患者様という「患者ファースト」との理念だけは忘れないでいると、取るべき行動が自ずと分かり、良い医療人になれると思う。また、そういう部分を植え付けて頂くような教育をして欲しい。

・医療・福祉の世界で働くと「人の死」に携わる機会がある。「人の死」に関する教育も求められる部分ではないかと感じる。

・人と人との接し方が一番重要であり、基本である。この基本を教育でしっかり教えて欲しい。

・授業評価に関して、常勤教職員への授業アンケートを実施したことは評価している。非常勤講師には現在行っていないが、実施することで母数が大きくなるので、色々な意見が出てくる。また、常勤と非常勤の違いも見えてくると思うので、常勤、非常勤問わず実施が望ましい。

・非常勤講師への授業アンケートは絶対数が多ければ良いので実施頂きたい。

・国家試験の合格率に重きを置いているのは当然だが、国家試験合格が目的ではない。合格することではじめてその職種に就くことが出来るのであり、そこがスタートである。そこが明確でないとそこから先の進歩がないのではないか。

・専門性とは違うかもしれないが、基本はコミュニケーションでどの業界にも必要である。例えば、コミュニケーションに特化した授業を有名な外部講師に依頼するなどの検討が出来るのでなないか。

・教員の採用についてだが、特に専門分野の教員は質の高い学校運営を維持するためには必要不可欠である。我々のような介護業界においては、人手不足の観点から新たな人材確保に貢献した職員に対して報奨金制度を設けているところが多い。例えば、優秀な教員確保の観点から教員及び関連企業に対し、介護業界のような制度を検討してみるのも良いのではないか。

| 評価項目 | （4）学修成果 |
|---|---|
| ① 就職率の向上が図られているか | |
| ② 資格取得率の向上が図られているか | |
| ③ 退学率の低減が図られているか | |
| ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | |
| ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | |

評価委員からの評価・意見

・積極的にボランティア活動をしている学生を高く評価し、尊敬している。学内でボランティア活動を評価する仕組みはあるとの事だが、個人的には、もっと大々的に評価して頂きたい。就職面接においても、多くのボランティア活動を行った事で積極性や豊かな人間性、コミュニケーション能力の評価に繋がると思うので、成績が優秀であること以上に医療・福祉においては、高い評価に繋がるはずである。

・卒業生として、学生時代に多くのボランティアをしたことを思い出す。それが、就職活動の際、職場を選ぶ材料になった。また、履歴書にもボランティア実績を書く欄があるので、評価に繋がったのではないかと感じている。施設側の立場としては学生にボランティア活動の受け入れができるように環境を整備していきたい。

・介護福祉学科の同窓会制度についてはコロナ禍で活動が休止しているのは致し方ない。また、介護業界が多忙ということもある。

・目的意識を持たない学生が多くなってきているとの事だが、各業界、その職種毎の成功例を多く示してあげて、社会が必要としてる人材であるとしっかり伝え、学生に夢を与えて欲しい。それが退学率の軽減にも繋がるはずである。

| 評価項目 | （5）学生支援 |
|---|---|
| ① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | |
| ② 学生相談に関する体制は整備されているか | |
| ③ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | |
| ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | |
| ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか | |
| ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか | |
| ⑦ 保護者と適切に連携しているか | |
| ⑧ 卒業生への支援体制はあるか | |
| ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | |
| ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | |

評価委員からの評価・意見

・今後のコロナ対応についてだが、実習時のバイタルチェックは継続的に行うとのことで、実習受け入れ先は安心できると思う。

・学生満足度調査の結果についてだが、教職員の学生指導等について、学生の満足度が高い状況、またハード面の設備について学生が改善を求めている点を理解した。

| 評価項目 | （6）教育環境 |
|---|---|
| ① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | |
| ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | |
| ③ 防災に対する体制は整備されているか | |

評価委員からの評価・意見

・インターンシップについてだが、職業体験的なものを 1 年次に行ってはどうだろうか。それにより、2 年次の実習に活かされるのではないだろうか。

・新たに設置したレセプションルームの活用方法を確認したが、これこそ外部講師による授業にしたほうが良いのではないか。実際に日常業務に携わっている外部講師がロールプレイングによる業務の流れや、クレーム対応などを行うことで、より実践的になるのではないか。

| 評価項目 | （７）学生の受入れ募集 |
|---|---|
| ①　学生募集活動は、適正に行われているか | |
| ②　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | |
| ③　学納金は妥当なものとなっているか | |
| 評価委員からの評価・意見 | |
| ・学生募集は現状適切であると評価する。 | |

| 評価項目 | （８）財務 |
|---|---|
| ①　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | |
| ②　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | |
| ③　財務について会計監査が適正に行われているか | |
| ④　財務情報公開の体制整備はできているか | |
| 評価委員からの評価・意見 | |
| ・過去３か年度の収支差額黒字は健全経営の象徴でもあるので、引き続き安定した推移を期待する。<br><br>・財務については、過去３か年度にわたり、安定した財務基盤を有していることもあり、情報も開示も学園ホームページにて公開されているので、広く社会に説明責任が果たされていると評価する。 | |

| 評価項目 | （９）法令等の遵守 |
|---|---|
| ①　法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | |
| ②　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | |
| ③　自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | |
| ④　自己評価結果を公開しているか | |
| 評価委員からの評価・意見 | |
| ・公益通報に関する規程についてだが、コンプライアンスに関わることであり、現状の学園内の体制よりも第三者のホットラインを設けるなどの取り組みを行った方が、有効的に機能すると考える。<br><br>・自己点検・評価は毎年レベルが上がってきていると評価している。 | |

| 評価項目 | （１０）社会貢献・地域貢献 |
|---|---|
| ①　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | |
| ②　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | |
| ③　地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか | |

| 評価委員からの評価・意見 |
|---|
| ・卒業生として学生時代を振り返って、授業も大事だが、ボランティアでの校舎周辺でのゴミ拾いが印象に残っており、それが教育の中に必要なものであったと感じる。現在も継続しているのが、素晴らしい。<br><br>・社会貢献・地域貢献についての取り組みは、現状適切であると評価する。 |

| 評価項目 | （１１）国際交流 |
|---|---|
| ①　留学生の受入れについて戦略を持って国際交流を行っているか | |
| ②　受入れにおいて適切な手続き等がとられているか | |
| ③　学習成果が評価される取組を行っているか | |
| ④　学内で適切な体制が整備されているか | |

| 評価委員からの評価・意見 |
|---|
| ・介護業界では、やはりコミュニケーションが重要であるので、学校側での受入が多くなったときにも質の担保をお願いしたい。<br><br>・留学生の出身国別の教育方針はあるのだろうか。経験を積み重ねた後、システマチックに進めていくのも、これから多くの学生を受け入れるためにも検討してみてはいかがだろうか。<br><br>・本来、国際交流は相互の交流であるが、こちらから行く、または同じような教育機関を設立するなどの取り組みでの教育連携はあるのだろうか。現状ないとのことで理解した。 |